

働く仲間の安全と健康を 守れる未来

古田 真二

Shinji Furuta

専務執行役員
秘書室 安全健康推進室統括
マネジメントサービス本部長

Senior Managing Executive Officer
General Manager of Secretarial Services Office,
Safety & Health Promotion Office and Business Service Division



「安全と健康」は、企業経営の最優先事項である。当社グループが地域や社会の持続的な発展に貢献し続けるために、従業員の成長や活躍が重要であり、いきいきと働ける環境整備が不可欠である。当社は2019年に「中部電力グループ安全健康基本方針」および「安全健康行動原則」を制定し、安全文化の醸成と健康経営の推進に取り組んできた。この推進にあたっては、中部電力社長を議長とする「安全健康推進会議」を年4回開催し、安全と健康の推進に関する方針および施策の審議、進捗状況のモニタリングを行っている。近年では、従業員の安全と健康を推進するための投資に一層力を入れており、現状の取り組みと今後の展望について述べる。

まず、安全については、2019年に実施した外部専門機関による安全診断を機に、「すべてのケガは防ぐことができる」との揺るがない信念のもと、安全文化の醸成に向けて、けん引役である経営幹部への安全健康研修をはじめとする様々な取り組みを展開してきた。至近では、労働災害件数は減少傾向にあるものの、決して起きてはならない死亡災害が4年連続で発生しており、強い危機感を抱いている。当社従業員はもちろん、請負会社や協力会社を含めて安全最優先の文化を醸成していくため、安全に関する行動を日々愚直に実践し続けることに加え、貴重な財産である仲間の成功や失敗から得た教訓を自らの行動に活かすこと（自分事）が大切である。

2022年に運用開始した「安全活動支援システム（AKSiS）」は、災害の未然防止と安全意識の向上を目指して開発し、安全情報の水平展開、災害データ蓄積（登録、閲覧、周知など）システムとして当社グループ内で活用されている。

今後は、「AI技術によるAKSiSデータを用いた作業の危険予測」や「ウェアラブル端末との連携による作業者のバイタル情報活用」等、より現場の安全活動に効果的なツールへのアップデートを検討しており、IoTやDXを最大限活用し、共に働く仲間が安全にいきいきと働くことのできる環境の整備を続けていく。

従業員の健康増進に向けては、当社は世間で健康経営

が注目される以前から、過重労働の防止、全従業員への個別保健指導および特別休暇・傷病休職制度の充実などにより、従業員が心身の健康を維持できるよう努めてきた。至近では、すべての働く仲間が「生涯にわたって健康であり続ける」という信念のもと、従業員のウェルビーイングの実現、さらには企業価値の向上に繋げていくことなどを目的に、健康経営の取り組みを一層加速させている。

2022年には、自身の運動習慣や睡眠に関するデータを可視化することで、健康行動変容や運動習慣の定着を支援するため、従業員のうち希望者全員にウェアラブル端末を配付した。併せて、楽しく自身の健康と向き合うため、端末を活用し歩数・睡眠等の健康活動に応じてポイントを付与する「健康ポイントプログラム」を創設した。社内部署対抗のバーチャルウォーキングイベントでは、ウェアラブル端末が共通のコミュニケーションツールの役割を果たし、健康行動変容の促進のみならず、職場の一体感醸成にも寄与している。

また、運動・睡眠習慣の改善等好ましい行動変容が起こっているだけでなく、端末活用率が高い群のBMI数値が改善傾向であることもわかってきた。これらの取り組みの結果、2024年には4年連続5回目となる健康経営優良法人「ホワイト500」に認定されている。

今後の展望として、ウェアラブル端末から得られるデータを、AIなども活用しながら高度に分析、活用することで、より効果的な施策につなげていく。また、健康保険組合とも連携しながら国が進めるデータヘルスとして展開することも念頭に置きつつ取り組みを深化させていく。

“働く仲間の安全と健康を守れる未来”は、当社グループの事業を発展させていくうえで、必ず実現しなければならないものである。当社事業に携わる一人ひとりの命を大切に、安全と健康を最優先に考えていくことを、経営層が先頭に立って示し、安全文化の醸成および健康経営の推進に引き続き取り組んでいく。